

MAENAN SAH Journal Vol.17

～『自分で考え、判断し、行動できる生徒の育成』をめざして～ Oct. 19th, 2023

★全国の『生徒主体』行事の事例を紹介します！★

①私立横浜創英高等学校『国内研修旅行』 ～生徒が自らつくる修学旅行～



多数決で決まったプラン。
少数派は、どう思うか。

横浜創英HPより

「行き先は北海道か沖縄、どっちがいいだろう？」これを生徒に問いかけ、多数決で決めさせれば、一見生徒たちに寄り添った修学旅行に見えます。しかし、少数派にとってはどうでしょうか。修学旅行は学びの場であるとともに、一生の思い出の場。どこかで「沖縄の方が良かったな」と思うってしまう時間は、寂しいように思います。そう、多数決という手法は「この学校じゃなければ」と、他責思考に陥りやすい構造になっています。多様性を認めようと謳う教育からかけ離れていることは明らかです。

<横浜創英 HP より抜粋>横浜創英高校は、まず『行き先がひとつ』という前提を取り下げ、生徒が、希望する行き先を選べる状態をつくりました。有志の生徒がグループに分かれてプランを作成し、さらに旅行社との交渉へ、『6つの修学旅行プラン』を完成させ、学年全員へのプレゼンを行いました。例えば北海道を選んだ生徒たちは、2泊3日のスキー漬け、というプランでした。広島を選んだ生徒たちは、平和学習に取り組みました。行かされる、聞かされる講義とは異なり、生徒たち全員が前向きに学んでいる姿が印象的でした。青春時代の大切な思い出を、自らの手でつくることのできたら、きっともっとワクワクする経験になります。

<教頭より>私立高校の強みですね。『6コースの費用』が『同じくらい』になっているのかも気になります。「コロナ対策」「アレルギー対策」「安全対策」なども心配してしまう自分がいます。しかし、生徒が旅行社と直接交渉することは『大きな経験』となり、財産となるでしょう。前南でもできる日が来るといいですね。

②石川県立大聖寺高等学校『生徒発案でアイスクリームの自販機設置』



<NHK HP より抜粋>石川県の石川県立大聖寺高校では、ユニークな取り組みを通じて学校の魅力の向上につなげようと、生徒会の発案により『アイスの自動販売機』が設置されました。入学希望者が『定員割れ』になるなど『学校の魅力の向上』が課題となっていて、生徒会は今年3月に全校生徒からアイデアを集めました。その結果、『アイスの自動販売機を設置するアイデア』が採用され、生徒会は期待できる『リフレッシュ効果』について校長に説明をしたり、アイスの種類について業者とやりとりしたりして、半年にわたって準備を進めてきました。そして今年8月末に自動販売機が学校の玄関に設置されることとなったそうです。生徒会では、『食べ歩き禁止』や、『ゴミは専用ボックスに捨てる』といったルールも自主的に考えました。生徒会では、『学校の魅力向上を目指した別の取り組み』も検討したいとしていて、生徒会長の向出惺真さんは「とうとう自販機が設置されてうれしい。ありがたいではないユニークな取り組みを進め魅力的な学校にしていきたい」と話しています。

<教頭より>学校でアイスクリーム食べたいですね。仕事がかどる気がします。勉強もそうなるのではないのでしょうか？ペットボトルのゴミ問題が気になりますが、生徒会が自分たちで勝ち取ったものですから、『ルールの徹底』も生徒主体で運営してくれるのでしょうか。右の写真は『太田女子高校』の『学校案内』です。セブンティーンアイスの自販機導入の『経緯』は書かれていませんが、『県内での先行事例』があるということです！ということは前南でも・・・笑。



なんと！
あのセブンティーンアイスの自販機を設置!!
休み時間の楽しみが増えました♡
アイスの自動販売機導入

③東京都立日比谷高等学校『三大行事』

④秋田県立秋田高等学校『秋高三大行事』

<日比谷高校 HP より>5月の『体育大会』、6月の『合唱祭』、9月の『星陵祭』は『三大行事』と呼ばれています。生徒自らが考え、主体的に作り上げる伝統的な行事です。『体育大会』の名物ともいえる『応援合戦』は、赤青白黄の4つの団に分かれ、各団とも熱のこもった演技を繰り広げました。『合唱祭』は合唱を通じてクラス内の人間関係を深め、互いに音を聴きあい、充実した合唱を創造することを目的としています。準備や運営は『合唱祭委員会』が進めます。課題曲は設定せず、音楽的内容を深く研究しながら各クラスで選曲し、混声合唱を行うコンクール形式の行事です。『星陵祭』は例年、全クラスが『教室劇』を行っています。今年度は事前に『映像作品』を制作し、当日は装飾を行った各教室で鑑賞する形態をとりました。各クラスとも感染対策を徹底し、夏季休業前から準備をはじめ、夏季休業中には稽古・撮影・編集作業・装飾準備を行いました。

<秋田高校 HP より>『自主自律』の精神のもと、秋田高校の『三大行事』である『運動会・秋高祭・学級対抗』は、企画立案から運営まで、すべて生徒主体で行われています。『行事企画管理室』が先頭となって運営されます。この経験を通じて、仲間と協力し、目標に向かって日々努力を重ねることで、多くの気づきと新たな学びに出会うことができます。しかしながら、行事の運営には『難題や苦悩』が付きものです。そんな時こそ、仲間とともに『試行錯誤』を繰り返し、困難を『克服』していくことが大切です。乗り越えた先には、『何にも代えがたい喜び』が待っています。長い歴史の中で培われた伝統を重んじつつ、『自由な発想やアイデア』を尊重する秋田高校の行事は、今も変わらず多くの人々に愛されています。

<教頭より>日比谷高校は『東京都の公立高校1位の偏差値』、秋田高校は『秋田県高校1位の偏差値』です。印象としては『勉強第一』となるわけですが、毎年『三大行事』を『生徒主体』で『企画立案・運営』しているというところに、『高校生活にける熱量』を感じざるを得ません。『勉強だけ』では『もったいない』のです。『前南三大行事』と言えるようなイベントの企画もありではないでしょうか？みなさんからのアイデアをお待ちしております！文責：星野 亨（教頭）